

## II 調査結果の特徴

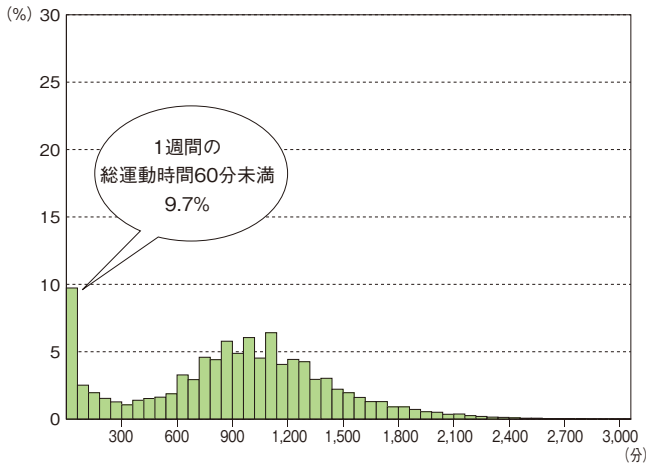
### 1. 生徒の運動習慣と体力～1週間の総運動時間から

#### 1 | 1週間の総運動時間の状況

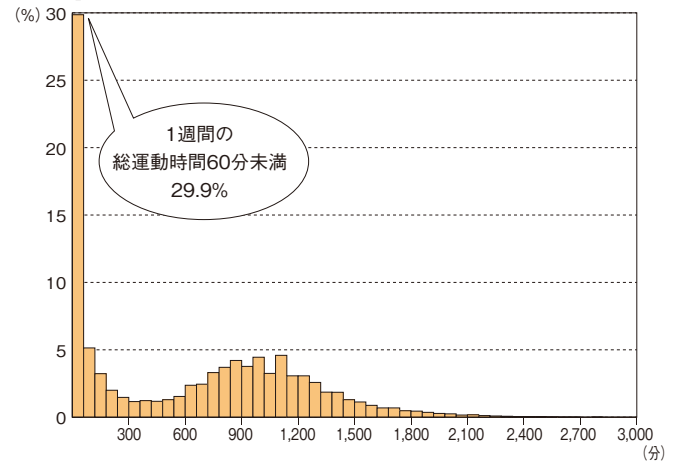
- ①1週間の総運動時間の分布は、平成20、21、22、24年度調査と同様、明確な二極化がみられた。
- ②特に、女子の1週間の総運動時間が60分未満の生徒は、29.9%であった。
- ③1週間の総運動時間が60分未満の生徒のうち、男子の78.6%、女子の80.2%の運動時間が0分であった。

#### 〈1〉1週間の総運動時間の分布

##### ●男子

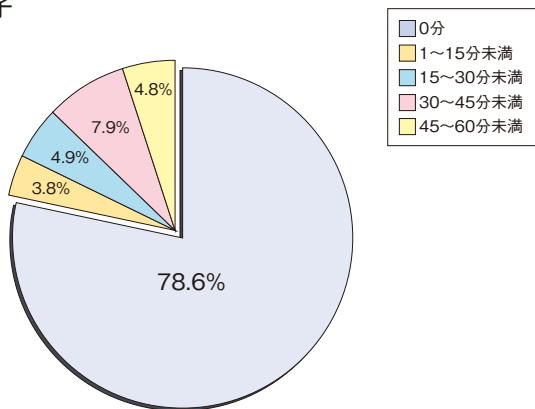


##### ●女子

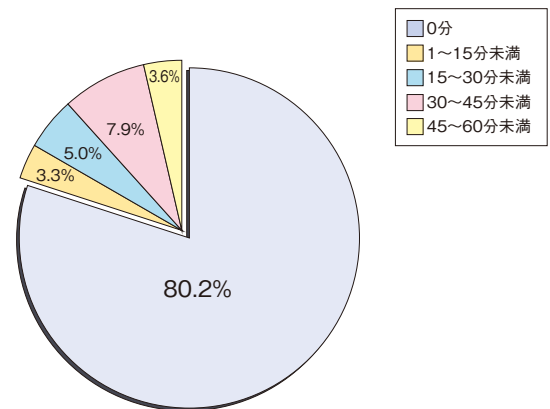


#### 〈2〉1週間の総運動時間が60分未満の生徒の運動時間の内訳

##### ●男子



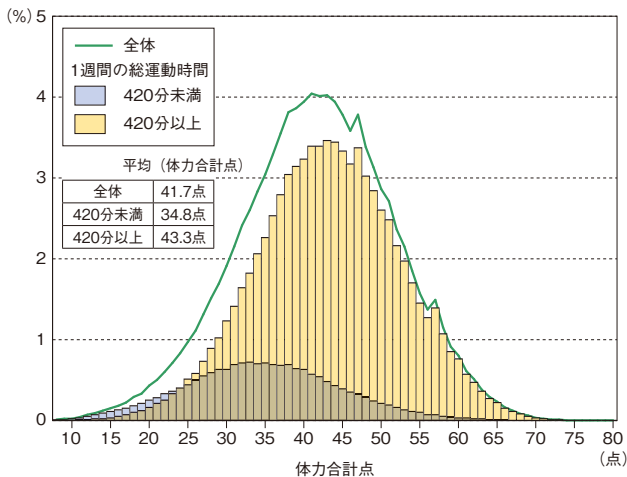
##### ●女子



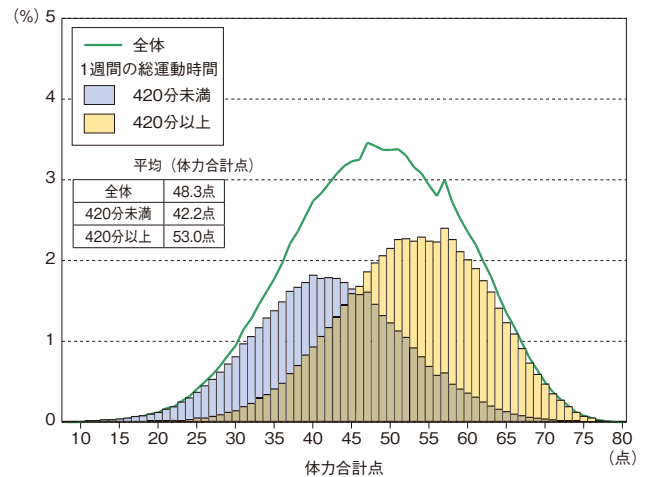
#### 2 | 1週間の総運動時間と体力合計点との関連

- ①男女とも、1週間の総運動時間が長い生徒の方が、体力合計点が高かった。

##### ●男子



##### ●女子



- ①昭和60年度と比較可能な種目すべてにおいて、男女とも、1週間の総運動時間が420分以上の生徒は、420分未満の生徒に比べて、昭和60年度水準到達率（各種目の昭和60年度平均値に到達した生徒の割合）が高かった。
- ②昭和60年度水準到達率が最も高かったのは50m走で、1週間の総運動時間が420分以上の生徒は、男子が56.3%、女子が55.6%であった。
- ③男女の持久走、女子のハンドボール投げは、1週間の総運動時間が420分未満の生徒の昭和60年度水準到達率が20%を下回り、特に持久走は、男子が11.8%、女子が8.4%であった。

※スポーツ基本計画（平成24年3月文部科学省）では、体力水準が高かった昭和60年度水準を上回ることを目標としている。  
 ※グラフ中の縦の赤い点線は昭和60年度の平均値、表中の到達率は昭和60年度水準到達率。

